

いま平和について思うこと

出演者

ちょうふピース部

M 高校2年生 S 高校2年生 F 高校1年生

和光高校

N 高校1年生 T 高校1年生

進行役

齊藤小百合 恵泉女学園大学教授

○齊藤

こんにちは。齊藤小百合と言います。高校生たちが主役の企画になっていますので、私は脇役として進めさせていただこうと思っています。この企画をたてた実行委員会、ありがとうございます。冒頭で実行委員長の佐久間さんがおっしゃられたように複数の戦争が続いているし、世界で大変な軍事費、過去最大になっていたり、直接的かどうかは人によりますが、軍事的脅威にさらされているわけですよ。そうになると、身体が縮こまっちゃう、恐怖で硬直してしまいがちかなと。しかし、平和をつくっていくためにはもっと自由に、平和への想像力というのを創っていききたいし、平和についての多様なビジョンを模索していかなければならないと思っています。固くならず自由に考えたいなと思っています。そのために3点話したい。



平和を創っていくためには憲法は平和だけでなく、基本的人権も大事で、平和を創っていくためには個人が尊重されるということが肝要かと思います。その点で、若い人たちの感性というのは個人が尊重される、個人の尊厳にあふれていると思う。若い人たちに人気のアーティスト、ミセス・グリーン・アップルの映画「ラーゲリより愛を込めて」の主題歌になった「ソランジ」の歌詞ですが、「有り得ない程に キリがない 本当に 無駄がない程に 我らは尊い」。私たち一人ひとりが本当に「尊い」です。Adoさんという方も人気ですね。「可愛くてごめん」という曲で「私が私の事を愛して何が悪いの?」「変わり者とバカにされても曲げたくない」「尊くてごめん」という歌詞がある。同じAdoさんの「エルフ」の歌詞は素敵で、「挑みなさい 君の美しさや 尊さを傷つけるモノに」「その心臓は 最後の一打ちまで君の物だ」。自分を自分として大事にすること、個人を尊重すること、集団・国よりも個人が大切にされること、それが平和を創っていくためには大事な事かなと思います。

皆さんに紹介したいと思ったのは、ホワイエの入口に小さなQRコードをコピーして、皆さんに取って頂けるよう用意しました。私の大好きな神戸大学で長く平和学を教えて来られたロニー・アレキサンダーさんが「ポーポキ・ピース・プロジェクト」をやっています。「ポーポキ」というのはハワイ語で「猫」。ポーポキという猫が「平和って何だろう」「どんな色だろう」ということを探しながら考えていく、絵本で、3シリーズある。動画になっている。そのQRコードです。ポーポキから教えてもらうのは、平和は戦争の話だけじゃないよね、戦争が無いのは平和学では「消極的平和」。戦争が無くていろんな社会的不正義がある、それは構造的暴力という。そうだとしたら、私が安心して自分らしく生きているということにならないと平和じゃないということ。日常の中にも本来の「積極的平和」に繋がる色々な要素がある。安心して、自分でいられるなあという感じ。我慢したり、取り繕ったり、良いこと言おうと思ったり、そうしたことをしないで済むことは、色々な種類の暴力的な脅威にさらされていないこと、それが「積極的平和」。安倍首相が「積極的平和主義」と言っていたのとは違うことです。

平和は色々！でも絶対的暴力である戦争になれば、日常の平和、好きなアーティストの曲が聞けなくなるし、彼らが思うように自由に曲が作れなくなるので、止めて欲しい。そのために、どんなことを考えたら良いのか？最近のニュースで国際刑事裁判所、ICCを聞くようになりましたが、所長は赤根智子さん、日本出身の女性の方、アメリカから制裁を受けている。ICCの組織自体も解体されようとしている。追い込まれている感じ。しかし、赤根さんは「あきらめない」。なぜ、毅然と言えるのか、法律家は、今ある状況を「しかたない」と言ってしまうと法制度が成り立たなくなる。現状のままにしておくと「力の支配」になりがちになる。力の支配、弱い人が犠牲になる世界です。諦めると「力の支配」に屈することになるけれど、あきらめない、今ある現状にこうあるべきだよねという「法の支配」を作り上げていこうとしたら、「しかたない」と言っていると成り立たない。私も赤根さんに連なって、諦めずに平和を創っていこうかと、皆さんと一緒に考え続けたいと思います。

ではいよいよメインの高校生に話を。最初に、用意していただいている「平和への思い」をお願いします。

F：私は平和を創るためには沢山の人の命や大切な人を奪った戦争を繰り返さないことが大切なことと考えています。そのためには戦争があった過去のことを学び、平和の大切さを理解することが重要。相手の立場や考えを尊重し、武力ではなく話し合いで問題を解決しようとする姿勢が重要であると思います。

2人以上いる限り、価値観や考え方にズレが生じることは当然のことです。しかし、考えが違ったからと言って力づくで自分の意見を通そうとするのではなく、お互いに妥協点を探し続けることが平和的な問題解決につながると思います。世界では今でも戦争が起こっていて、多くの罪のない人々の命が奪われ続けています。互いに尊重しながら理解しようとする姿勢が平和の環境を作る第一歩だと思います。

私は平和とは誰かが与えてくれるものではなく、一人ひとりが思いやりを持ち、尊重する行動を積み重ねていくことで護られるものだと思っています。一人ひとりが小

さな規模であっても行動を積み重ねることが、社会全体の平和につながっていき、大きな困難などの解決の糸口になると思います。私も自分でできる平和に繋がる行動を実践し続けていきたいと考えています。

S：普段学校に行って友達と話したり、家族でご飯食べたりして過ごしています。自分たちにとって当たり前の日常が明日もおとずれると当たり前のように私は考えてしまいます。しかし、戦争や紛争が世界各地で起きていけば、当たり前の日常がずっと続く保障はありません。日本もいつ戦争に巻き込まれるか、今の生活が変わってしまうかも分かりません。戦争が起きたら家族と笑いながらご飯を食べることも友達と笑い合うことも難しくなります。常に不安を抱えながら日々を過ごすことはとても辛く、苦しいです。

私は、平和はただ戦争が起きていない状態ではなく、安心して家族や友だちと過ごし、好きなことをして笑い合える自由な状態であると考えます。何気ない日常である平和を守っていくためには戦争の恐ろしさと平和の尊さを伝えていくことが必要不可欠なことだと思っています。

現在、戦争体験者の方々が減ってきているので、直接当時のお話を伺う機会は、少なくなってしまうと思います。だからこそ、私たちの世代が戦争を経験した方々の思いや当時の様子を学んで、後世に伝えていく必要があると思います。

ピース部は今年1月に沖縄県に行き、平和祈念資料館や旧海軍司令部壕などを見学して、改めて戦争の恐ろしさを実感しました。もし、戦争がなかったらこの当時の人たちは普段通りの学校生活を楽しんだり、勉強したり、学生だったら行事に積極的に取り組んだり、普通の生活をおくれていたのではないかと考えると、胸が締め付けられて、戦争の残酷さを感じました。特に沖縄では美しい街並みが並んで、戦争がまるで無かったかのように感じられるからこそ、戦争の記憶を風化させてはいけないと強く思います。

戦争によって日常を失った人々がいることを心に刻み、過去の出来事と捉えるのではなく、今の私たちが平和につなげながら、これからも平和について学び続けていきたいと思っています。



M：2人とは違うことを考えています。今、ロシアとウクライナでご存じの通りですが、どちらかが完全に勝利するまでは終わらないと思っていて、中東情勢もホルムズ海峡とかは緊迫した状況が続いて、おそらくアラブ人がパレスチナ地域に独立した国家をつくるまで終わらないと思っています。いま核の脅威がどんどん増して、今の技術は上がっているので、AIだったり、ドローンが戦場に投入されていて、いますから、現在の戦争というのは泥沼化しやすいものになっています。私たち日本が最後に戦争したのは幸運なことに80年以上前のことなので、私たちが想像する戦争というものとは、今の戦争は全く違います。自由落下で爆弾は落ちてきません。意思を持って飛んできます。

中国とネパールはいま、洪水とか土石流で沢山の人が亡くなったり、まだ見つかっていないという状況。ヨーロッパでは記録的な熱波が記録されました。さらに、世界的に森林火災が起きている状況で、世界・地球規模の課題がどんどん増えていますから、本来であれば戦争なんかしている場合ではないんです。みんなで一つの課題に立ち向かっていくべきだなと思いました。

それとは全く話が違いますが、私はサンリオが好きで、多摩にあるピューロランドにもよく行くのですが、メインパレードがザ・クエスト・オブ・ワンダーズパレードで、歌詞に「それぞれの幸せを寄り添って大切に思えたなら、みんなの幸せは一人ではつukれない」とあり、本当にその通りと思います。サンリオの企業理念、色々あるが、どんなときにもトップに出てくるのが、「みんな仲良く」。初代の会長の辻さんが空襲を体験されている方なので、それを経て「みんな仲良く」という目標を達成するために、サンリオを創っているのです、サンリオは「みんな仲良く」を実現するために色々やっているのです、今あげた歌詞の通りだと思っていて、みんな仲良くして行ければ良いのになあ、と思っています。

N：僕は毎日の”当たり前”が続くことが平和だと思っていて、学校へ行ったり勉強したり友達と遊んだり、家に帰れば美味しいご飯がでてきて。それは僕からしたら当たり前ですが、当たり前じゃない人も多いと思っていて、それは身近でもいて、例えばいじめとか親がいない子とか、貧しい地域の人々で学校に通えない子、子どもながらに働いている子だっています。

世界の政府や日本の政府は防衛費や憲法改訂で戦争できるようにするとか、国と国の争いごとばかりに向けています。そんなことをしている場合ではないのではないかと思う。身近なところにいる子から世界のすべての人々の平和と安心した暮らしにするためにどうすればいいのか、目を向けるべきではないかと思います。

それを実現させるためには国と国が協力することが大切です。今していることの真逆だと思う。今は国と国が対立して平和を目指すどころか、平和から遠ざけています。でも国と国が協力して平和をめざそうとしたら、必ず全ての人々が平和に暮らせる日が来ると思います。国のトップは何のためにいるのか、それは国を良くするため。それは当たりの生活をしていない人々に支援し、不自由な生活をおくらせるようにすること。

さっきも言ったように僕からしたら”当たり前“。それが平和だと思う。なぜなら、僕はなに不自由なく暮らせて幸せだから。僕の”当たり前“が全ての人々の”当たり前“になれば良いと思います。

T：世界や日本の政治情勢に関して私が思っていることは、知ろうとしなければ知ることができない状況があるということが、すごく怖いなと思っていて、例えばこんなデモが行われていたんだとか、色々なデモが日本でも少ないながらも起きていて、私はそれがあることをぜんぜん知らないし、細かい法案だけど閣議決定されていたり、テレビのニュースだけでは知り得ない情報が沢山あると思う。そういうニュースを耳にすると、まわりの人と話したり、こういう会に参加させてもらったり、日本の状況というか世界の各地で起きている問題にも目を向けて、危機感を覚えるんですが、何か行動することができなくて、この思いをどうして良いのか分からなくて、「どうしたら良いんだろう」と、いつも通過してしまうことが悩みです。

でも、それって勿体ないなと自分でも思っているんですけど、こういう会に参加させてもらって話をしていることは有難いし、すごく嬉しいことだと思っています。平和とは人によって全くそれぞれ違う意見があると思いますし、価値観も違うと思いますが、私の今の生活は当たり前だけど、すごく平和で、自分がイライラしたり、ちょっとのことにムカついたり、そういう生活も何か当たり前で、平和なんだなって、この世界の情勢とか日本の状況を見るとき、すごく感じます。

でも、自分の”当たり前“が、少しずつ政府によって変えられて、佐久間さんやいろんな方が言っていたように戦争に近づいている、準備が始まっているというのはとっても感じています。高市政権によって、その前の安倍政権からいろいろ引き継がれているものがあって、戦争の準備が進められているなと感じているんですが、そういう意見に対して防衛費増額は国を守るためだからとか、防衛費、これだけで戦争が近づいているというのはお花畑とかいう人はすごく多いと思うんですが、そういう人もいの中で、こうやって思う気持ちとか、言って行かないといけないけど、押しつぶされそうなこの中で、どうやって立ち向かって行くかとか、こうやって集まって話ができているこの大切さ、ありがたさを背負って、何か行動に移して、考えるのを止めないで行きたいな、と思っています。

齊藤：皆さんありがとうございました。すでにリンクする話があるようですが、Nさんから「こんな大変な状況があって、そんなことしている場合じゃないんじゃないか、国のトップの人は」と、それってMさんが言っていた「ネパールと中国の洪水」、どこかの大統領が「気候変動なんてない」と否定して、戦争している。戦争って一番環境を破壊しますよね。気候正義を進めて行かなくちゃならないと言っている。お互いにコメントはありますか？

M：日中戦争の時に、中国の共産党と国民党、日本という共通の敵と戦うために、すごく仲悪いのに一緒に戦うというエピソードがあります。そんな感じで人間って一つの共通する敵と戦うために団結しようとするんです。同じように環境問題という一つ

の共通する敵にみんなでもう少し仲良く一致団結して立ち向かって行けば良いのに、と思います。

齊藤：ありがとうございます。Nさん、どうですかね。

N：（しばし沈黙） ないです！

齊藤：ごめん！では仕込んでおいた質問、先ほど紹介したポーボキピースプロジェクト、ゆるいですけど、皆さん（来場者）への質問でもあるんですが、どんな時に平和を感じますか？どんな所にいるときに平和だなと思うのかを質問します。猫のポーボキはへそ天になって草むらでフワーっとしているときに平和だなと動画で出て来たりします。

もし、なんでそう思うのかという説明も付くと嬉しいです。目が合ったMさんから。

M：目が合ったらしいんで。私が平和を感じる時は音楽を聴いているときです。それに限らず、好きなことをやっているときですけど、写真撮るのが好きなんです、カメラ触っているときや撮っているときも、平和だなと感じます。好きなことができるというのは精神的余裕とか空間の余裕とかお金とか色々ありますが、戦争が起きていたり、自分のメンタル的に不安定であるときは出来ないなと思うようになり、平和だなと感じます。しみじみと感じるということではなく、漠然とああ平和かもしれないと。どんな所に居るときに平和とを感じるか、博物館とか美術館とか好きなんです、そこに居るときです。戦争が起きている国の子どもたちは教育の機会を失うと良く聞く話です。平和だからこそ過去の人たちが積み上げてきたものがそこにあるということはずっと平和だったということなので、それを有難く享受できているということとはとっても平和なのかなと思います。

齊藤：ほんと、そうですね。いろんな意味での余裕があるときに好きなことを楽しめる、平和な思考でいられる。逆に余裕がないといがみ合いというか、対立しがちですね。Fさんが言われたような相手を互いに尊重することには、なりにくいですね。

S：私は夜寝る前にベッドに入ったとき、美味しいものを食べているときと助け合っている人を見た時。電車で席を譲っている人を見ると平和だなと思うし、美味しいものをたくさん食べているときも、好きなことを自由にできるのが平和だなと。夜寝る前は、一日無事過ごせたなと安心感と不安がない状態で寝られる喜びが感じられるから。私が平和だと思う場所は家族みんなで旅行に行って、海に入っているときとか、家族みんなで部屋でカードゲームやっていると。学校の教室がすごい平和だなんて感じる。

齊藤：学校の教室が平和だなんて感じられるのは良い教室だよな！

Fさん、どうですか？

F：私が平和を感じる時は何かを学んでいるとき、勉強しているときと、先々の予定を立てているときです。理由は自分が勉強できる環境に居ないとできないので、平和でないと環境が得られないし、学ぼうとするメンタルにもなれないです。それで勉強するとき平和だなんて思います。先の予定を立てているというのも、誰かと会うことができる環境にいるからこそ予定が立てられるので、そういう時が平和だなと思います。

齊藤：予定が立てられる、というのは平和である、当たり前日常、何人かから出ていますが、それが続くから将来の予定が立てられる！色々な脅威にさらされていたら、先を見据えて立てることができないですね。

N：僕が平和を感じる時は部活のバスケをしている時とか、学校に通って授業を受けていたり、友達とご飯食べたりするとき。部活、僕は当たり前でできるんですけど、出来ない子が多いと思ってて。当たり前でできているので平和を感じます。

T：質問を聞いたとき、全然思いつかなくて、メチャ、考えたんですけど、いちいちそんな平和を思って過ごしてはいないし、それって日々、全体が当たり前になっているからこそ、その当たり前が平和だということに気づけていないのかな。その当たり前が壊れちゃうときに、例えば戦争だったり危機が迫っているときに、やっと、もしかしたらその当たり前が平和だったと、その当たり前はガラスの上に乗っていたと気付くのかなと。そうでもしないと気づけないかも知れないと思ったりしました。皆の意見にそうだなそうだなと思うことはいっぱいあって。ただ、ベッドに寝る前とかは地震苦手、夜、寝るときはちょっと地震が怖いです。

齊藤：夜中の2時とかにね、警報が鳴ると嫌ですね。平和って見え難い、認知し難いし、逆に戦争だったり、紛争だったり、暴力だったりは見えやすいですね。だから、戦争的な状況は分かるし、平和が壊された時に、初めて平和だったのかと気づくことはTさんのおっしゃる通り。平和を意識し難いので、だからこそポーポキが考えようとしたり、プロジェクトをしているということかと思っています。

いくつか重なっているところがある。好きなことやっている、それができる環境があるのが「平和」。皆さんにもぜひ、どんな時に平和を感じるのか、どんな所に居ると平和だなと思うのか考えて頂けたらと思います。

さて、話題を変えて、皆が冒頭で話して下さったことの中に大事なことがある。普段、学生たちと勉強している時に教えてもらったり、皆さんからもいろいろ教えてもらっていますが、お互いに聞いてみたいことがありますか？

M：ちょうふピース部は調布市の中にある組織で、いろんな事やったりとか、いろんなお話をもらったりとか、有難いことにやりたいことができるんですけど、和光高校さんはそういうことは出来るんですか？これやってみたいんだけどなー！みたいなこ

とはないんですか。

齊藤：やりたいと思ったことをやるみたいなのは？さっき、言われていたように、日本や世界に危機を感じている、なんでだろうとか、もやもやするって発言があったよね。

T：学校として、ちょうふピース部さんは部活のような感じで活動されていると思うんですが、学校として平和活動をしているわけではないので。小学校、中学校で平和学習、総合学習ということでやってます。もやもやに関しては、和光小学校の保護者・教員の取組みで、憲法九条の会というのがあるのがあって、それに私たち何回か出させてもらったことがあるんですが、その時、世界情勢だったり、平和のことだったり聞いて、学んで、対話をしながら考える場があって、それが話をするきっかけにもなったし、そういう会に参加させてもらったことが、私にとってはそういう場になったかなと思います。

齊藤：ありがとう。（ちょうふピース部に向いて）なぜ、この質問が出てきたのかな？

M：ピース部は毎年度、必ず1回「ピース・レターちょうふ」を発行しています。ホワイエに置いてあるので、ぜひ持って帰ってください。有難いことに話す機会、調布市のイベント「調布平和のつどい」があり、壇上でしゃべったんですが、「平和のつどい」とか「（調布FMの）ラジオ出演」とか地域コミュニティの中でお仕事を、これやってくれない、みたいなこといただくことが多いです。学校だと、和光高校という私立の、組織が大きいから、一つでまかなえるじゃないですか。私のイメージなんですけど、やってみたいなということが組織の中で、大きすぎるとうまく伝わらないとか。これやりたいのに代々、毎年こうしているからって、これやるしかないということが多いのかなと思って。

T：私たちは和光高校1年生なんですが、きっかけは和光中学3年生の時。その時の総合学習では、それぞれ班に分かれて、クラス毎にやり方はそれぞれなんですけど、班になって平和についてテーマを決めて、学習して、文化祭で発表する。それで、何のテーマをやらなければいけないというよりは、それぞれの班がそれぞれのやりたいテーマを持って、やりたい探求をしたかな。平和学習というくくりに関しては代々、受け継がれてきたものだと思いますが、やりたいことに関しては、中学の学習では、とても自由な方面で、探求ができたんじゃないかなと思います。

齊藤：和光中学の（Tさん・Nさん達の）平和学習の成果が展示されています。構造的暴力である差別のことであったり、自由にトピックを選んで学んでいるということだそうです。

高校生の方から大人に聞いてみたいことは？

M：日本において平和を語るうえで絶対登場するのは、憲法九条だと思うんですが、それに関連して、自衛隊についてどう思いますか？自衛隊は極端に言えば「武装組織」と思いますが、自衛隊を災害派遣したり、そういうのをやっていて、普通の警察ならそこまでできないこと。皆さんは自衛隊についてどういう印象を持っていますか。

齊藤：自衛隊の印象という質問が高校生から出てきました。フロアの皆さま、いかがでしょうか？

客席1：（日本国）憲法の解釈の問題で専守防衛か非武装中立かということが一番大きいと思うが、高校生の皆さんがその二つの言葉を学習されているか分からないが、私は非武装中立でいきたい。憲法九条の理念を守っていきたい。現実には専守防衛。日本の国もそう言っていますし、最近では武器を造って、やりますよーとなっていますが。どの政党も非武装中立はもはや言っていない。共産党も専守防衛と言っているかなと。社会党・社民党はもとよりですね。でも私は非武装中立、武器は持たない、感情としてはそう行きたい。

M：非武装中立でいきたいということは自衛隊があつて良いということなのか失くすべきということなのか、どちらなんですか？

客席1：私は失くすべきと思う。ただ、公務員であるとか、制度的な問題があるから、政党によっては災害派遣隊に変えていこうという考えがある。攻撃された時に反撃をするかしないかですが、攻撃された時に専守防衛ですから反撃するだけの武力を自衛隊が持っていなければいけないのだ、ということで建前ですけども存在してきているわけですから。そこで私は攻撃されても、まあしょうがないかなと。だって、ウクライナはあの時、あの大統領が逃げてしまえばこんな戦争にはなっていないと。ゼレンスキー大統領が、私は逃げません、大統領府にいますと言ってしまったために4年と半年、まだ戦争している。尻尾を巻いて逃げる人間も必要だし、福田元総理ではありませんけれど、尻尾を巻いて逃げるという選択をする大人が居なくては、どんどん惨禍は広がるので、尻尾を巻いてみんなで逃げようよ。隣で自分の可愛い子どもが殺されるかもしれないということです。今あるものは災害派遣隊にするとかして欲しいと思っています。

齊藤：この件についてはものすごく意見が分かれると思います。そういう意見が分かれるときにどうするのか？Tさん、如何？

T：私の疑問は、もし、意見が真反対の人と対峙したときなど、そういう話になった時には意見がぶつかることにはなりますが、そういう時に皆さんはどうされますか。

客席（二階堂）：古い話ですが、私は（70年安保の）大学紛争の時に政治のことを勉強

してなくて、勉強している人たちに反論できなかった。それから、色々なことを知らなくてはいけないと。そうした時には絶対に話しで解決したいと思います。喧嘩をしないためには勉強しないとダメだと。先ほどの朗読劇の台本を書いた者なんですが、とにかく知らなきゃだめだとすごく思いました。今の情勢でも判断するには知らないダメだし、余りに国民が知らない、憲法と法律という話も余りに国民が知らないから、権力のある人に、SNSだとかで上手く言われると、本当にそう思っちゃう訳です。だからとにかく「知らなきゃいけない」と強く思いました。

さっきの質問に関して、自衛隊は災害救助隊のようなものに変えて欲しいのと、攻められたら、私はしょうがないと思う。攻められて、防衛するにはものすごい大変で、そんなことをお互いにやっていたら軍事力はたちごっこでどんどん大きくなり、どこの国も攻められたから防衛のためにと。みんなそうですね。自分の方からやったと言わない。全て、防衛のための戦争という言い方をする。広島で原爆を受けた方のお話を調布にいらした方が記録したものがあるのですが、一人の方は攻められたら私はそのまま占領されます。私は戦争はいやです。という言葉が心に残っています。

齊藤：二階堂さん、ありがとうございます。朗読劇に回答があったかなと思います。もう一つ、聞きたいことが。Fさん。

F：私の疑問は戦後81年、戦争体験された方がどんどん亡くなられて、減っていつてしまっていると思うのですが、今後いなくなってしまうと思うのですが、実際に戦争を体験された方の記憶をどのように継承していくのでしょうか。その考えを聞きたいです。

齊藤：皆さんも広島や長崎に行って、まだ健在の方に直接聞いていますよね。そうしたことができる最後の世代ですよね。今のうちにアーカイブの様なものを作ったり、皆がすでにやっていることを継続することではないか。時間が無いので、まとめたいと思う。さっきのTさんの質問は、私はあまり喧嘩したくないので、知識を持って武装するというのは一つだと思います。違うなと思っても、喧嘩をしないためには抽象度を上げるというのですか、話しのテーマの抽象度を上げることを心掛けるようにします。大分私と違うのかなと思う時には、同じテーマだけど、あまり具体的な話を直接しないで、ちょっと抽象度を上げていく、そのために知恵が必要だったりとか知識が必要だったりとかしますが、一般化するとか、より広い射程にして探ってみたりすると、案外、「おお、そうだね」と。Mさんが言っていた日本が経験した戦争と今の戦争は全然違う、確かにぜんぜん違うこともあるければ、全く同じこともある。人が殺し殺されると。一般化の度合いを上げる、抽象度を上げると、そこなら話せるかなという気がします。

会場からも発言いただきありがとうございます。まとめる必要はないと思いますが、参加した5人の高校生、本当にありがとうございました。雨で、足元の悪い中を来ていただきました皆様、本当にありがとうございます。ご清聴いただき、ありがと

うございました。

これは私の意見ではなく、打合せの時に学生さんの一人が言っていたことですが、
「多様な平和のビジョンというのを、考える、考え続けるきっかけになるような材料
だったり、言葉だったり、それを持ち帰って頂けたら」という言葉で、締めさせていただきます。ありがとうございました。

以上